

認証GAP取得者に対する効果聞取調査結果

令和2年6月15日

環境保全農業課

1 調査の目的

生産者においてGAP認証取得を目指した目的、認証取得・継続における課題、認証取得による改善効果等に関する声を集約するとともに、その取りまとめ結果を推進する上での資とするため。

2 聞き取り調査の概要

(1) 対象者 GAP認証取得者

(2) 回答者 173名

ア 認証GAPの種類(表1)

(ア) GLOBAL G.A.P. (以下GGAP)	18件
(イ) ASIAGAP (以下AGAP)	4件
(ウ) JGAP	104件
(エ) ふくしま県GAP (以下FGAP)	47件

イ 認証取得後年数別(表2)

(ア) 1年未満	63件
(イ) 1年以上2年未満	60件
(ウ) 2年以上	50件

(2) 調査内容(※平成30年度調査と同様)

ア 認証GAPの導入目的

イ 認証GAP導入による改善効果

- (ア) 収支・販売面
- (イ) 収量・品質・コスト面
- (ウ) 作業・従業員面

ウ 認証GAPに取り組む上での課題

(3) 調査方法 農林事務所が聞き取りし、環境保全農業課で取りまとめた

(4) 調査期間 令和2年3月10日～4月24日

表1 回答者の内訳(認証GAP別)

認証GAPの種類	件数(件)
GGAP	18
AGAP	4
JGAP	104
FGAP	47
合計	173

※GGAP:GLOBAL G.A.P.、AGAP:ASIAGAP、FGAP:ふくしま県GAP

※複数取得者については、GGAP>AGAP>JGAP>FGAPの順でより上位の認証GAPで整理。

表2 回答者の内訳(取得後年数別)

取得後年数	件数(件)
1年未満	63
1年以上2年未満	60
2年以上	50
	2年 39
	3年 9
	4年 1
	6年 1
合計	173

※基準日:令和2年4月1日

3 結果

(1) 認証GAPの導入目的

- 選択肢8項目で最も多い回答は「生産物の安全・安心の確保」で半数を占め、次が「売上・販路の維持・拡大」で16%、それ以外は数%であった(図1)。
- 認証GAP別で比較すると、GGAP・AGAPとJGAPの取得者は「取引先からの要請」や「経営の効率化」を目的とする生産者がおり、JGAPとFGAPの取得者では「生産性の向上」、「安全な労働環境の整備」、「従業員の責任感の向上」を目的とする生産者が認められた(図2)。
- 「その他」の回答(表3)では、「風評払拭」が6件で最も多く、「今後必要になる」、「SDGs」、「輸出」など将来を見据えての意見もあった。なお、「オリパラ」を理由とする生産者は2名だった。

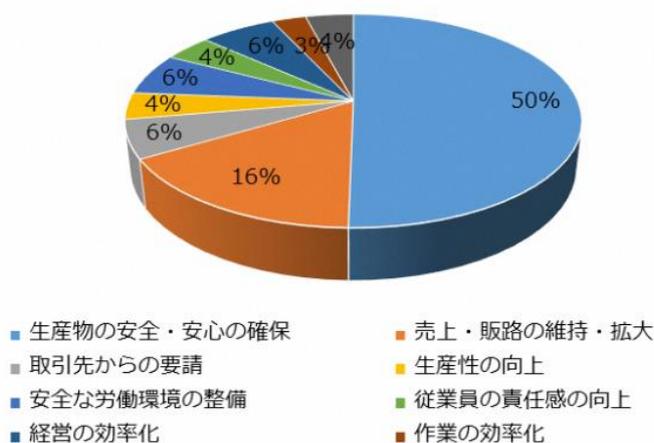


図1 導入目的 (全体)

表3 その他の導入目的

その他の理由	件数(件)
風評払拭	6
勧められた	5
今後必要になると見込んで	4
SDGs	3
整理整頓	3
見える化	3
オリパラ関係	2
輸出	2
HACCP取得予定のため	1
生産基盤の強化	1
最低限の取組として	1

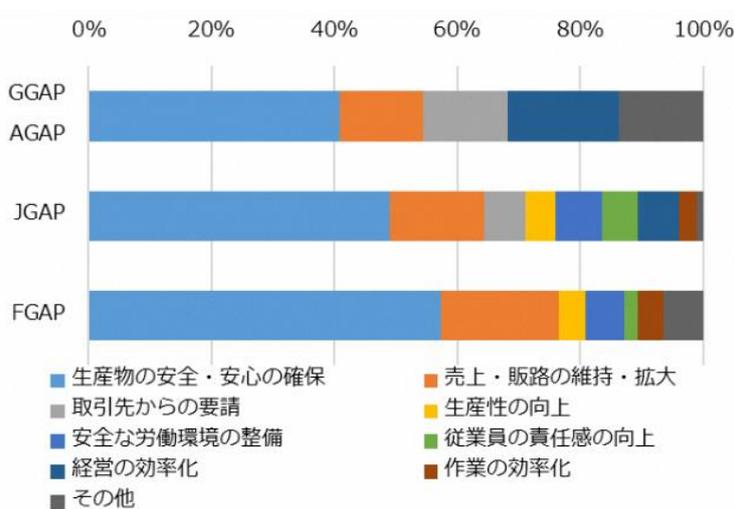


図2 導入目的 (認証GAP別)

(2) 認証GAP導入による改善効果

ア 収入・販売面

- 収入・販売面の選択肢7項目を全体で見ると、12~22%の生産者が効果を認めている(図3)。

- また、GAP認証取得後の経験年数で比較すると（図4）、経験年数が長いほど導入効果が高くなる傾向があり、2年以上の経験者は6項目で経験年数の短い生産者より高かった。
- 特に、経験年数2年以上の生産者では、「販路の拡大」と「商談、取引拡大に関する問い合わせ等の増加」が30%以上、「所得額の増加」と「売上額の増加」が20%以上の割合で改善効果を認めた。

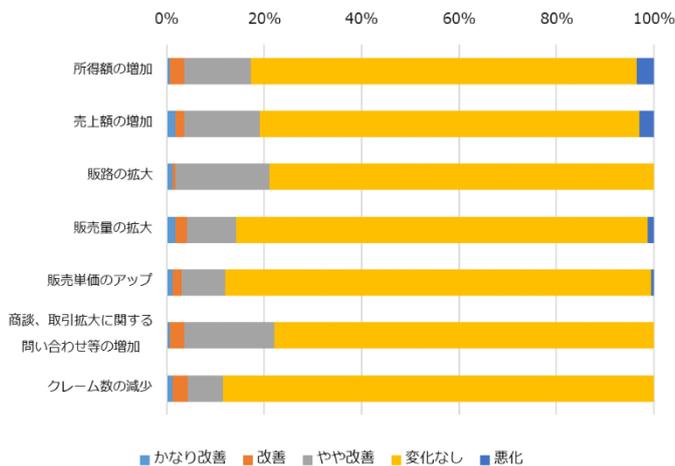


図3 収入・販売面での改善効果

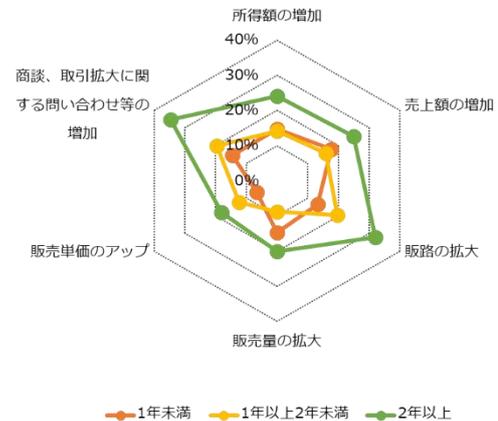


図4 認証取得後年数別の収入・販売面での改善効果

※各項目で「かなり改善」、「改善」、「やや改善」と回答した件数の割合

イ 単収・コスト面

- 単収・コスト面の選択肢6項目を全体で見ると、16～28%の生産者が効果を認めており、その中でも「品質の向上」、「農薬費の削減」、「作業時間の短縮」などが比較的高く20%以上の回答があった（図5）。
- 「農薬費の削減」効果について、GAP認証取得後の経験年数で比較すると、経験年数1年未満が10%程度であるが、1年以上になるとその割合は30%以上まで増加し、2年以上では「かなり改善」と回答する生産者もあった（図6）。

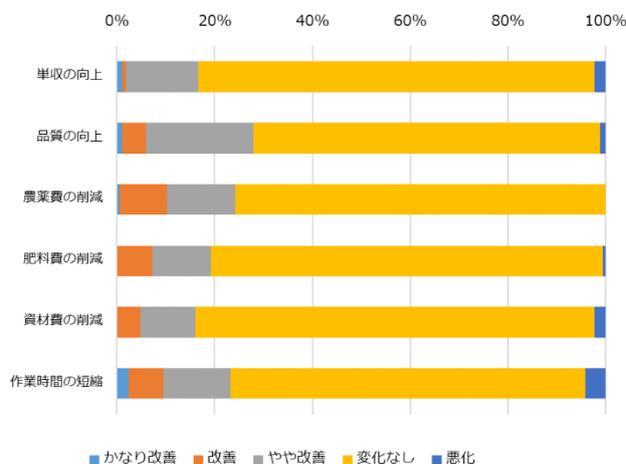


図5 単収・コスト面での改善効果

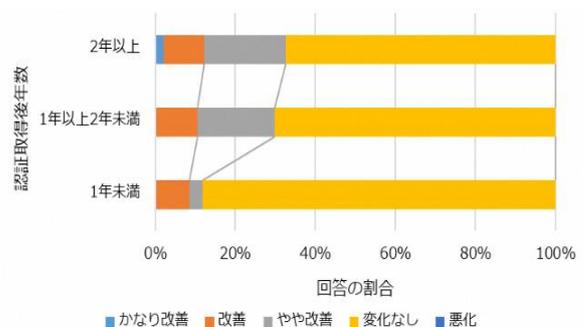


図6 「農薬費の削減」における改善効果

ウ 作業・従業員面

- 作業。作業員面の選択肢8項目を全体で見ると、多くの項目で「かなり改善」や「改善」と回答する割合が多く、高い改善効果を認めている（図7）。
- 特に、「作業・生産管理の改善」、「農作業安全意識の改善」、「従業員の責任感・自主性の向上」が70%以上、「従業員間の意思疎通」が60%以上、「生産・販売計画の立てやすさ」が50%以上の生産者が改善効果を認めた。
- 効果の高かった「農作業安全意識の改善」と「従業員の責任感・自主性の向上」について、GAP認証取得後の経験年数で比較すると、取得後年数による差異は小さく、取得後すぐに効果を実感する傾向があった（図8、9）。

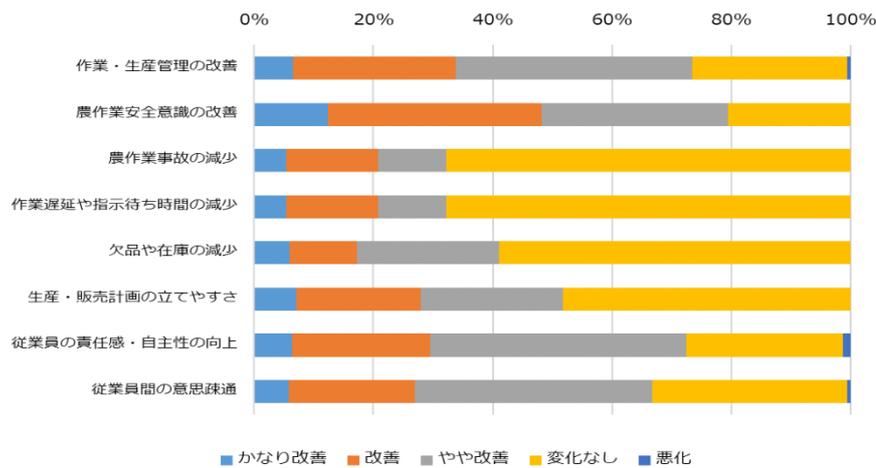


図7 作業・従業員面での改善効果

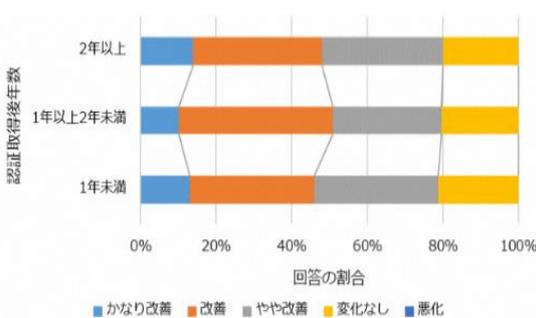


図8 「農作業安全意識の改善」の効果（認証取得後年数別）

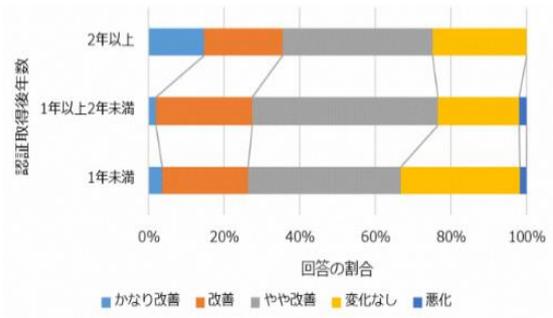


図9 「従業員の責任感・自主性の向上」の効果（認証取得後年数別）

エ 認証GAPの種類毎の比較（図10）

(ア) 収入・販売面

- GGAP・AGAP取得者が最も高く、約半数が効果ありと回答し、JGAP取得者が39%、FGAP取得者が35%と同程度であった。

(イ) 単収・コスト面

- GGAP・AGAP取得者とJGAP取得者は同程度で、FGAP取得者はやや低い割合であった。

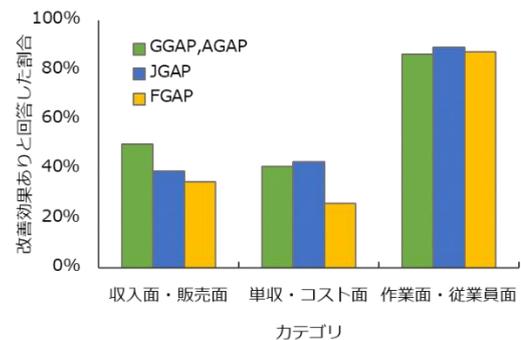


図10 認証GAPの種類による改善効果

※各カテゴリ内の項目で「かなり改善」、「改善」、「やや改善」と回答があった割合。

(ウ) 作業・作業員面

- 認証GAPの種類と比較で大きな違いはなく、改善効果を認める生産者の割合はいずれも高く80%を超えた。

(3) 認証GAPに取り組む上での課題 (図11)

ア 認証取得後年数での比較

- 選択肢7項目で比較的高く「課題あり」と回答したのは、「消費者の理解が不十分」と「認証の取得・維持・更新費用」で、経験年数によらず80%以上あり、「取引業者の理解が不十分」は65%以上の生産者が回答した。
- また、「帳票等作成に手間がかかる」ことを課題にする生産者も多いが、経験年数が長くなるにつれて、その割合は減少した。
- 一方、「農場等の整理整頓がうまく進まない」や「従業員の意識・責任感が改善されない」などを課題とする生産者は、3割程度であった。
- 「その他」の回答には、補助事業がなくなった場合の費用負担について不安視する意見が多くみられた。

イ 認証GAPの種類毎の比較

- GGAP・AGAP取得者は、他の認証取得者と比較して「帳票等作成に手間がかかる」、「農場等の整理整頓がうまく進まない」、「従業員の意識・責任感が改善されない」を課題とする割合は低かった。
- 「認証の取得・維持・更新費用」については、GGAP・AGAP取得者とJGAP取得者は90%以上が課題としたのに対し、FGAP取得者は55%と低かった。

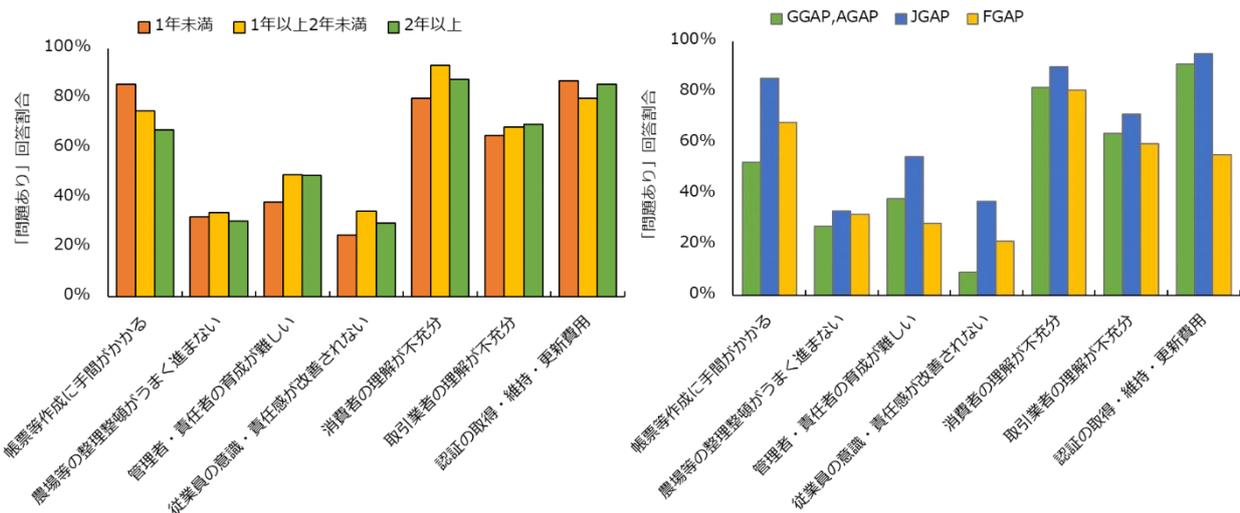


図11 認証GAPに取り組む上での課題
(左：認証取得後年数別、右：認証GAP別)

※各項目で「かなり問題」、「問題」、「やや問題」と回答があった割合。

4 まとめ

- (1) 認証GAPの導入目的については、「生産物の安全・安心の確保」が50%、「売上・販路の維持・拡大」が16%であった。また、第三者認証GAP取得者では、「取引先からの要請」との回答が、FGAPと比べ多かった。
- (2) 認証GAPの導入による改善効果について、収入・販売面で効果があるとの回答は全体では10~20%であったが、認証取得後の経験年数が長くなるほど効果があるとの回答が増加した。経験年数2年以上の生産者の30%以上が「販路の拡大」と「商談、取引拡大に関する問い合わせ等の増加」の効果を認めた。
- (3) 単収・コスト面での効果があるとの回答は16~28%で、その中でも、「品質の向上」、「農薬費の削減」、「作業時間の短縮」が20%以上の生産者が改善効果を認めた。
- (4) 作業・従業員面では、生産者の50~80%が改善効果を認めており、その割合は認証取得後の経験年数に関わらず高かった。
- (5) 取得した認証GAPの種類別の改善効果を比較すると、GGAP・AGAP取得者は収入・販売、単収・コスト面で他と比べて効果を実感していた。
- (6) 認証GAPに取り組む上での課題については、第三者認証GAP取得者の90%以上が「認証の取得・維持・更新費用」と回答した。また、認証GAPの種類に関わらず、80%以上が「消費者の理解が不十分」と回答した。

5 考察

- (1) 生産者がGAPを導入したことで、作業の効率化や生産性の向上など無駄のない農業経営に結びつくとともに、農作業における責任感や安全意識の向上、従業員の育成等に効果があった。また、GAPの経験年数が長い生産者では、売上額の増加、販路の拡大など所得向上が認められており、継続的なGAPの取組が有効である。
- (2) 一方、GAPを継続する上での課題は、認証取得費用と消費者・食品事業者等のGAPへの理解不足をあげる生産者が多かった。
- (3) 1点目の認証取得費用については、GAPが良い農業を行うための経営改善ツールであり、その費用を農産物に転嫁し消費者等に納得いただくのは困難であることから、費用が伴う認証GAPの取得については、生産者の慎重な判断が必要となる。
このため、第三者認証を必要とする生産者に対しては、経営レベルに応じた助言や各種研修へ誘導するなど経営感覚の醸成を図るとともに、収益力のある生産技術や新品種の導入、高品質で付加価値のある農産物の生産に向けた支援が重要である。
また、本県農業が、風評を払拭し持続的に発展するためには、GAPの普及が重要であるため、費用負担が少ないFGAPによる支援が必要である。
- (4) また、2点目の課題である消費者・食品事業者等に対するGAPへの理解促進については、GAPを推進する上で重要であることから、県のHPや各種イベント等でPRするとともに、食品事業者等に対する認証農産物の情報提供や生産者とのマッチング、生産者の販路開拓に向けた取組等を支援する必要がある。
- (5) さらに、消費者の生活スタイルや食品事業者等の流通体系が変化し、多様な販売チャンネルが存在することから、産地等が販売先のニーズに対応できる生産体制の構築が

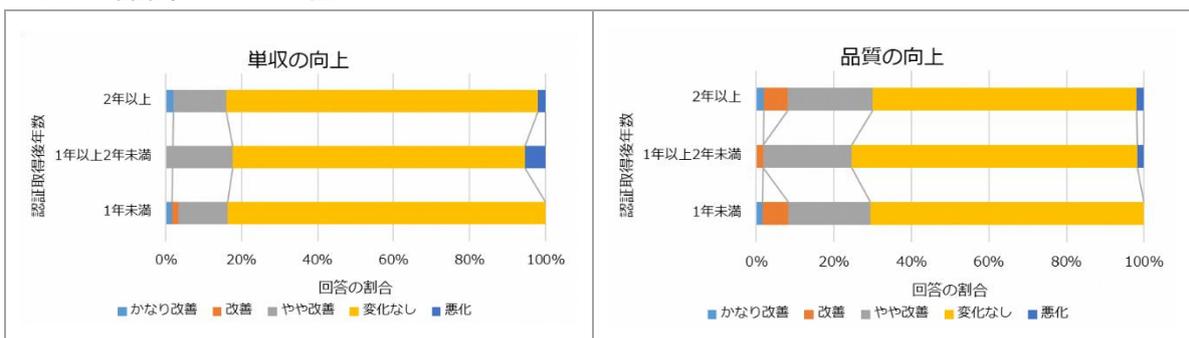
急務である。このため、産地等が団体認証GAPに取り組み、食品安全や環境保全など「見えない価値」を見える化し、客観性のある情報発信をもって消費者等の信頼を得る取組の拡大を支援する必要がある。

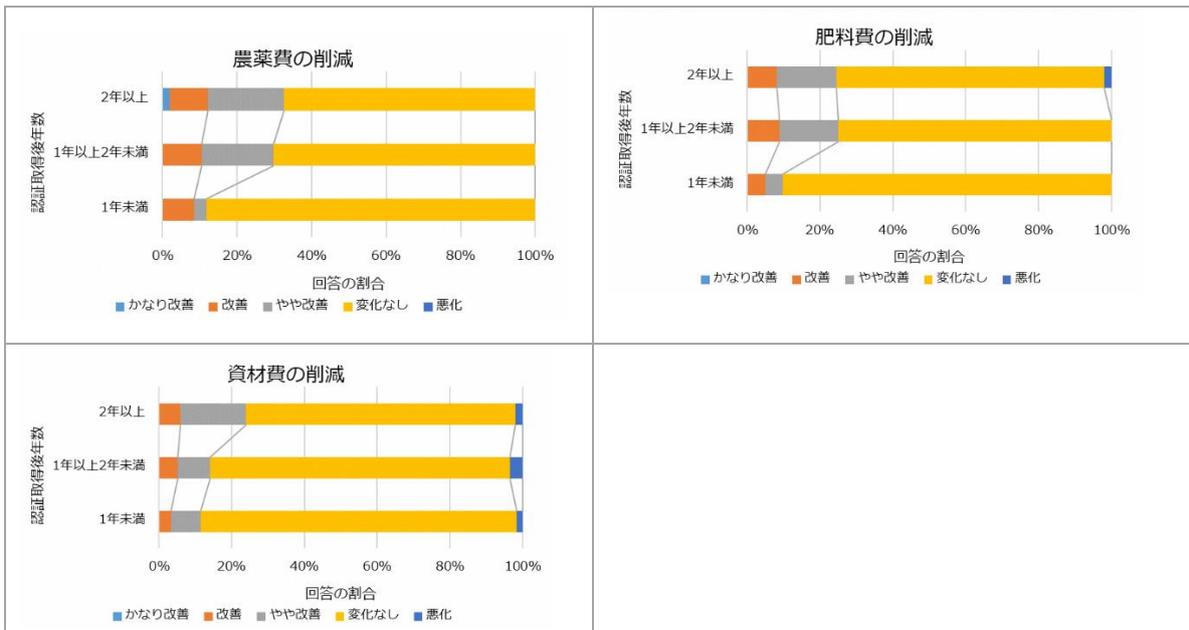
<参考データ>

1 収支・販売面

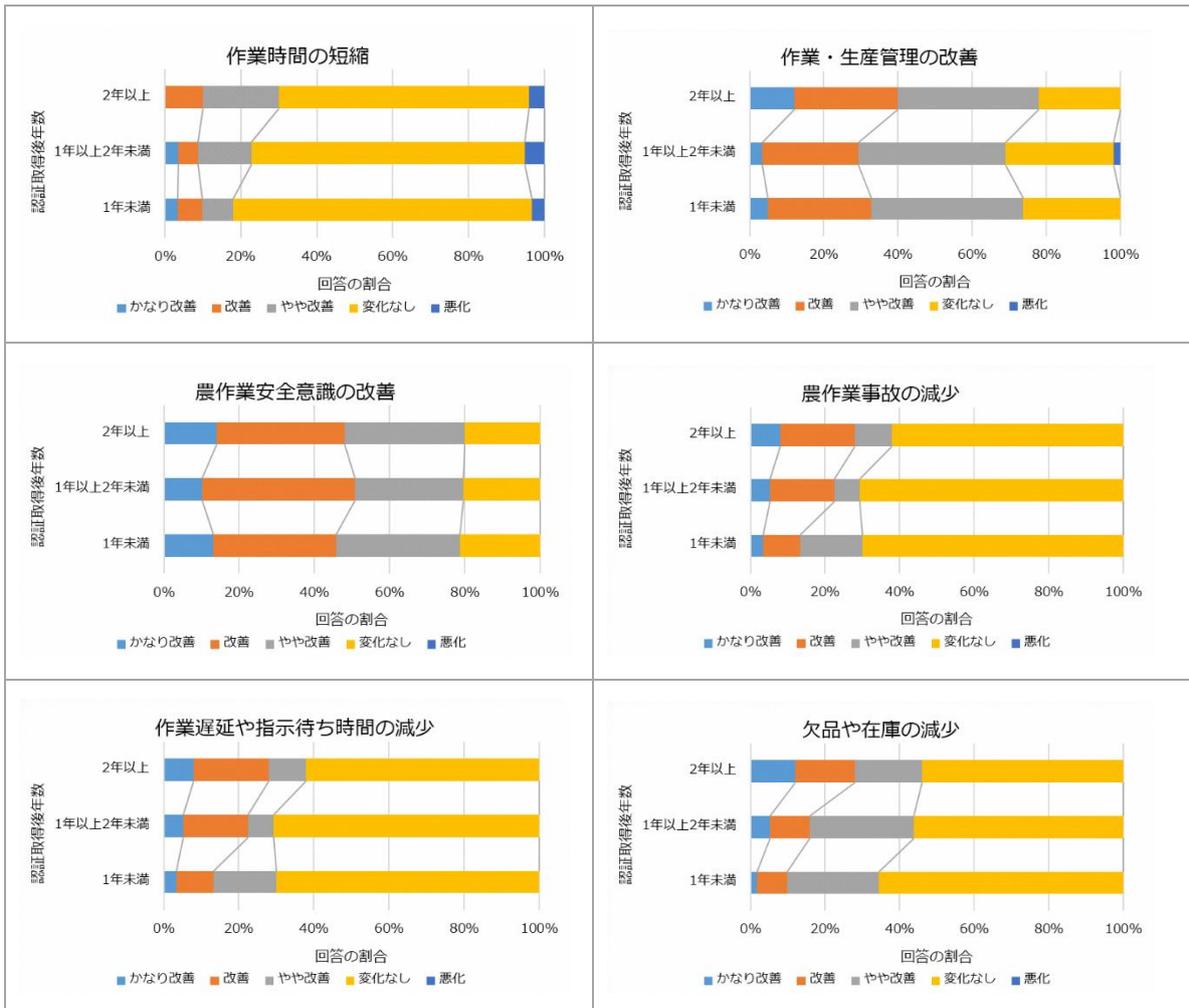


2 収量・品質・コスト面





3 作業・作業員面





4 認証GAPに取り組む上での課題

